



**Pick Up News** 今年度より学部通信の発行を引き継ぎ、皆さまのご協力のもと、無事に毎月1回の刊行を続けることができました。制作にあたりご協力いただいた学生・教員の皆さまに、心より感謝申し上げます。日頃、何気なく手に取って読んでくれている学生が多いと耳にし、たいへん嬉しく感じています。それが、制作を担う私にとって大きな励みとなっております。来年も引き続き、どうぞよろしく願いいたします。さて、今年一年を振り返って、皆さんにとってどのような時間となったのでしょうか。1年生は高校から進学し、新たな環境での学びが始まりました。生活と学習のリズムを確立し、目標に向かって歩み出した一年だったことと思います。2年生は来年度のコース選択を控えています。自分の得意分野や興味を見つめながら、主体的な選択を期待します。3年生は研究室配属を終え、これまでとは異なる学びの深さや楽しさを感じ始めていることでしょうか。4年生は大学生活も残り3か月となりました。卒業研修に全力で取り組むとともに、限られた学生生活を有意義に過ごしてください。大学院生については自身の目標達成に向けて、一歩ずつ着実に進んでいただければと思います。皆さんにとって、来年が実り多く充実した一年となることを願っています。どうぞ良いお年をお迎えください。



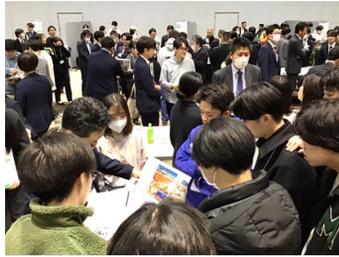
**Please follow us!**  
現在のフォロワー数は977。在学生が一生懸命に情報発信してくれています！

## — 学生の進路を拓く！ — 建築学科主催「東北を支える建設関連企業との交流会」を開催

2025年10月14日(火)、仙台国際センターにて、建築学科が毎年企画・開催している「東北を支える建設関連企業と建築学科の交流会」を開催しました。

本交流会は、就職活動を控えた建築学科3年生および大学院博士前期課程1年生を対象に、本学建築学科の卒業生として建築関連企業で活躍されているOB・OGの方々と直接交流する機会を設けることで、将来のキャリア形成を具体的に考えるとともに、建設業界への理解をより一層深めることを目的としています。学生にとっては、実際の業務内容や働き方、就職活動の体験談などを直接聞くことができる貴重な機会となりました。今年度は、125社・200名以上と過去最多となる企業・関係者の皆様にご参加いただきました。

建築設計事務所、ゼネコン、住宅メーカー、建築設備関連企業、さらには行政機関など、多岐にわたる分野の企業が一堂に会し、会場は終始活気にあふれていました。学生たちは各ブースで熱心に説明を聞き、積極的に質問を投げかける姿が多く見られ、本交流会が進路選択や今後の学修への意識を高める、大変有意義な機会となりました。



交流会の様子

## — 未来をデザインする力 — 大学院生 × 教員 活動レポート

建築学専攻の大学院では、研究成果の積極的な発信に力を入れています。12月9日・10日の2日間、沖縄市で開催された日本地震工学会年次大会において、船木研究室所属の大学院生2名が、日ごろの研究をまとめた成果を発表しました。

本学科の齋藤隆太郎准教授が、2025年都市住宅学会賞(業績賞)を受賞しました。受賞対象となった建築「都城ハッピー・ハット」は、高齢の单身女性を対象とした終活支援や居住支援を包括的に行う福祉拠点・居住施設として高く評価されたものです。また、石井敏教授が2024年に発表した共著論文「A scoping review of studies for senior nursing home planning in Japan - Trajectory of introducing private rooms and unit care system in nursing home」が日本建築学会の2024 Best Paper Awardを受賞しました。



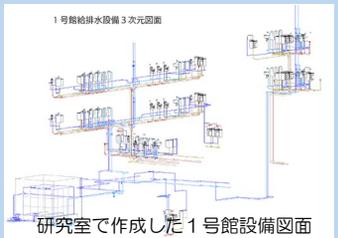
学会に参加した大学院生



設計プラン

**Pick Up Lab.** 今月は許研究室について紹介します。以下、許教授からの紹介文です。

昨今、ゼネコン関係者より、設備業者の不足により受注を断念するケースが多いと伺っております。師走のはじめ、3月の卒業生である大村伊吹君と、卒業後3度目となる再会をしました。設備会社に入社して約8か月が経過し、新人教育や現場研修、内勤業務などを経験する中で、着実に成長している姿に大いに感心させられます。同期入社100名以上のうちRevit経験者は4名ほどで、彼はその経験を活かし、ダクト図面の修正業務に従事しています。卒業研究で培ったRevitのスキルが実務に貢献していることを知り、指導教員として嬉しい限りです。現在は会社の支援を受け、一級建築士資格の取得にも取り組んでいるとのこと。今後の更なる活躍を期待しております。



研究室で作成した1号館設備図面



2年 山崎 香凛 さん  
仙台城南高校 出身

**Pick Up Student**

入学から二年が経とうとしています。この約二年間を振り返ると、失敗も含め、すべてが自分の成長につながる貴重な経験でした。設計の授業では、自分のアイデアを形にし、それを図面として表現することに初めて取り組み、大きな苦労を感じました。この学びを通して、設計は自分の得意分野とは異なることを改めて実感し、自分の適性について考えるきっかけとなりました。一方で、部活動では演奏会の開催や大会への出場を経験し、仲間と協力することの大切さや継続する力を身につけることができました。残りの二年間は、これまでに得た学びを生かし、より主体的に行動しながら、さらに充実した学生生活を送りたいです。



4年 星川 直輝 さん  
酒田西高校 出身

**Pick Up Student**

大学で学び始めてから4年が経とうとしています。振り返ると、どの学年でも忙しく、充実したものになっていたと感じます。私は普通科高校出身のため、初めの時期は専門科目の授業に苦戦しました。設計では、エスキスもうまくいかなかったことをよく覚えています。しかし、建築学科での学びは苦しくも楽しいものでした。私は現在齋藤研究室に所属し、論文の執筆と卒業設計に取り組んでいます。研究室の活動は新しい刺激にあふれ、自身の学びのモチベーションにつながっています。また、春からは大学院への進学が決まりました。大学院では、学部でできなかったこと、新しいことにチャレンジしていこうと思います。残り僅かな大学生活ですが、全力で走り抜けたしたいと思います。